Also available daily on the internet!!
http://qt.swim.org/user_dir/japanlife/user_print_web.php

Devotional Guide

ディーヴォ ガイド

2023.5.15-21

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

Family Worship

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

Cell Group Guide

セル　ガイド

①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
③ディボーションの分かち合いをします。
④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。 いつもの家族でいいのです。

①この１週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
②この１週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）１つだけ。
③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
④互いの必要のために祈りましょう。

L T G Guide

ＬＴＧ ガイド

①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（２～３つ）

②１週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。

③礼拝メッセージの分かち合いをします。
　礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）

④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

15日　月曜

Ⅱサムエル

18:16 ヨアブが角笛を吹き鳴らすと、兵たちはイスラエルを追うのをやめて帰って来た。ヨアブが兵たちを引き止めたからである。
18:17 彼らはアブサロムを取り降ろし、森の中の深い穴に投げ込み、その上に非常に大きな石塚を積み上げた。イスラエルはみな、それぞれ自分の天幕に逃げ帰っていた。
18:18 アブサロムは生きていた間、王の谷に自分のために一本の柱を立てていた。「私の名を覚えてくれる息子が私にはいないから」と言っていたからである。彼はその柱に自分の名をつけていた。それは、アブサロムの記念碑と呼ばれた。今日もそうである。
18:19 ツァドクの子アヒマアツは言った。「私は王のところへ走って行って、【主】が敵の手から王を救って、王のために正しいさばきをされたことを伝えたいのですが。」
18:20 ヨアブは彼に言った。「今日、伝えるのではない。ほかの日に伝えよ。今日は伝えないのがよい。王子が死んだのだから。」
18:21 ヨアブはクシュ人に言った。「行って、あなたの見たことを王に告げよ。」クシュ人はヨアブに礼をして、走り去った。
18:22 ツァドクの子アヒマアツは再びヨアブに言った。「どんなことがあっても、やはり私もクシュ人の後を追って走って行きたいのです。」ヨアブは言った。「わが子よ、なぜ、あなたは走って行きたいのか。知らせに対して、何のほうびも得られないのに。」
18:23 「しかし、どんなことがあっても、走って行きたいのです。」ヨアブは「走って行け」と言った。アヒマアツは低地への道を走って行き、クシュ人を追い越した。

Bible Reference 聖書の記述

アブサロムは外見も美しく多くの人から将来を期待されていました。自分自身もそのつもりで、自分の記録を残す柱を建てていたのですが、それは皮肉にも彼の反逆と敗北を記念するものとなってしまいました。
このように自分自身のために自分を誇る者は、正しい方向からそれて、むしろ恥を見ることになってしまいますから気をつけなければいけません。
アヒアマツにとって今日の勝利は喜びであって、早く王に知らせたいと思いました。しかし死んだアブサロムの父であるダビデ王にとっては悲しみの日であり、それは悪い知らせであったのです。
ものごとには良い面と悪い面とが一体となっている場合もあって、単純ではないのですから、主のみこころをよく知る必要があります。また悪い面をもたらすのは、人間の罪の結果であることも多いのですから、それをも益に変えてくださる主の深い摂理に信頼する必要もあります。
それぞれの使命を、主の摂理に頼りつつ果たしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

16日　火曜

Ⅱサムエル

18:24 ダビデは外門と内門の間に座っていた。見張りが城壁の門の屋根に上り、目を上げて見ていると、見よ、ただ一人で走って来る男がいた。
18:25 見張りが王に大声で告げると、王は言った。「ただ一人なら、吉報だろう。」その者がしだいに近づいて来た。
18:26 見張りは、別の男が走って来るのを見た。見張りは門衛に叫んだ。「あそこにも、一人で走って来る男がいる。」王は言った。「それも吉報を持って来ているのだろう。」
18:27 見張りは言った。「最初の者の走り方は、ツァドクの子アヒマアツのもののように見えます。」王は言った。「あれは良い男だ。良い知らせを持って来るだろう。」
18:28 アヒマアツは王に「平安がありますように」と叫んで、地にひれ伏して、王に礼をした。彼は言った。「あなたの神、【主】がほめたたえられますように。主は、王様に手向かった者どもを引き渡してくださいました。」
18:29 王は言った。「若者アブサロムは無事か。」アヒマアツは言った。「ヨアブが王の家来であるこのしもべを遣わしたとき、何か大騒ぎが起こるのを見ましたが、私は何があったのか知りません。」
18:30 王は言った。「わきへ退いて、ここに立っていなさい。」彼はわきに退いて立っていた。
18:31 見ると、クシュ人がやって来て言った。「王様にお知らせいたします。【主】は、今日、あなた様に立ち向かうすべての者の手から、あなた様を救って、あなた様のために正しいさばきをされました。」
18:32 王はクシュ人に言った。「若者アブサロムは無事か。」クシュ人は言った。「王様の敵、あなた様に立ち向かって害を加えようとする者はみな、あの若者のようになりますように。」
18:33 王は身を震わせ、門の屋上に上り、そこで泣いた。彼は泣きながら、こう言い続けた。「わが子アブサロム。わが子、わが子アブサロムよ。ああ、私がおまえに代わって死ねばよかったのに。アブサロム。わが子よ、わが子よ。」

ダビデ王が自分の敵となって自分を殺そうとした息子、アブサロムの死を嘆き悲しみました。親の愛とはこのようなものです。自分のことよりも子を愛するのです。これは神様が人を愛するゆえに人に与えた愛で、その源泉は神の愛です。

しかしながら、ダビデは本来はアブサロムを正しく教育すべきでしたし、彼が罪を犯したときにも正しく指導すべきでした。人間的な愛情だけでは、人を正しく導くことはできません。神様の御心に従って愛することが必要です。そのとき、感情に左右されてしまうような人間的な愛から、神様の愛であるアガペーに変えられるのです。

また親子の関係以外でも、人は感情だけでは正しい人間関係は築けません。主のみこころによる正しさが必要です。また、主の御心がその人の人生に成されるようにとの動機によって、人を建て上げることが必要です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

17日　水曜

Ⅱサムエル

19:1 そのようなときに、ヨアブに、「今、王は泣いて、アブサロムのために喪に服しておられる」という知らせがあった。
19:2 その日の勝利は、すべての兵たちの嘆きとなった。その日兵たちは、王が息子のために悲しんでいるということを聞いたからである。
19:3 兵たちはその日、まるで戦場から逃げて恥じている兵がこっそり帰るように、町にこっそり帰って来た。
19:4 王は顔をおおい、大声で、「わが子アブサロム、アブサロムよ。わが子よ、わが子よ」と叫んでいた。
19:5 ヨアブは王の家に来て言った。「今日あなたのいのちと、あなたの息子、娘たちのいのち、そして妻や側女たちのいのちを救ってくれたあなたの家来たち全員に、あなたは今日、恥をかかせられました。
19:6 あなたは、あなたを憎む者を愛し、あなたを愛する者を憎まれるからです。あなたは今日、隊長たちも家来たちも、あなたにとっては取るに足りないものであることを明らかにされました。今、私は知りました。もしアブサロムが生き、われわれがみな今日死んだなら、それはあなたの目にかなったのでしょう。
19:7 さあ今、立って外に行き、あなたの家来たちの心に語ってください。私は【主】によって誓います。あなたが外においでにならなければ、今夜、だれ一人あなたのそばにとどまらないでしょう。そうなれば、そのわざわいは、あなたの幼いころから今に至るまでにあなたに降りかかった、どんなわざわいよりもひどいものとなるでしょう。」
19:8 王は立って、門のところに座った。人々はすべての兵たちに「見なさい。王は門のところに座っておられる」と知らせた。兵たちはみな王の前にやって来た。一方、イスラエルは、それぞれ自分たちの天幕に逃げ帰っていた。

Bible Reference 聖書の記述

ヨアブにはダビデへの同情心がないという註解者もいます。確かにその通りでもありますが、一方ダビデもまた自分の子どもの反逆に対して、命がけで戦った兵士たちに対する労いや感謝の思いを持つ余裕がなくなっていました。
これらは限界ある人間にとってはしょうがないものですが、神のみわざを担う者は、そのような中でも神様のあわれみと助けによって、苦しくとも使命を果たさなければなりません。
私たちは大きな役割を担い、役に立つためには主のあわれみを求める必要があるのです。
ダビデは苦しみの中でも、心を奮い立たせて民の前に出て、彼らを励ましました。そのような断腸の思いをも主はご存知です。心を奮い立たせる必要があるとき、主の力と憐れみを求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

18日　木曜

Ⅱサムエル

19:9 イスラエルの全部族の間で、民はみな
こう言って争っていた。「王が敵の手から、
われわれを救い出してくださったのだ。われ
われをペリシテ人の手から助け出してくだ
さったのは王だ。ところが今、王はアブサロ
ムのいるところから国外に逃げておられる。
19:10 われわれが油を注いで王としたアブサ
ロムは、戦いで死んでしまった。あなたがた
は今、王を連れ戻すために、なぜ何もしない
でいるのか。」
19:11 ダビデ王は、祭司ツァドクとエブヤタ
ルに人を遣わして言った。「ユダの長老たち
にこう告げなさい。『全イスラエルの言って
いることが、ここの家にいる王の耳に届いた
のに、あなたがたは、なぜ王をその王宮に連
れ戻すことをいつまでもためらっているのか。
19:12 あなたがたは、私の兄弟、私の骨肉だ。
なぜ王を連れ戻すのをいつまでもためらって
いるのか。』
19:13 アマサにも言わなければならない。
『あなたは私の骨肉ではないか。もしあなた
が、ヨアブに代わってこれからいつまでも、
私の軍の長にならないなら、神がこの私を幾
重にも罰せられるように。』」
19:14 すべてのユダの人々は、あたかも一人
の人のように心を動かされた。彼らは王のも
とに人を遣わして、「あなたも家来たちもみ
な、お帰りください」と言った。
19:15 王は帰途につき、ヨルダン川までやっ
て来た。一方、ユダの人々は、王を迎えてヨ
ルダン川を渡らせるためにギルガルに来た。

ダビデは神の民があるべき姿を取り戻すためには、心の一致が必要であると知っていました。彼は今やイスラエルとユダでは大きな武力を取り戻したのですが、それで人々を押さえつけようとはしませんでした。彼らの心がダビデを王と認めることによって、「あたかも一人の人の心のように」ならせたのです。

ダビデの行いは多分に政治的な匂いがしますが、彼は自分にできることをしたのです。このように良い目的のためには、知恵を用いることも必要ですが、あくまでも主のみこころに叶うことが第一です。

ところで、ダビデは敵であったマアサにも寛大な心を示します。（実はその動機は、ダビデの思いがヨアブから離れたゆえに、その反動としてマアサを用いたかったのだと言えます。それまで用いていたヨアブは息子アブサロムを殺したからです。）多くの註解者はダビデの心には、信仰的な動機よりも、王位を守ろうとする保身や、アブサロムへの思いを優先する私情があったことを指摘します。

ダビデを単に模範として見るなら、表面的な見方しか生まれません。全ての聖徒がそうであるように、ダビデもまた不完全な人間であることに気づきつつ、そこに主の導きと警告があることを悟る必要があります。

私たちは、自分の言動の中に、保身や私情が潜み、それが純粋な信仰を妨げていないかどうかを吟味する必要があります。その上で、ダビデの良さである寛容に倣い、積極的な信仰で前進しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

19日　金曜

Ⅱサムエル

19:16 バフリム出身のベニヤミン人、ゲラの子シムイは、ダビデ王を迎えようと、急いでユダの人々と一緒に下って来た。
19:17 彼は千人のベニヤミン人を連れていた。サウルの家のしもべツィバも、十五人の息子、二十人の召使いを連れて、王が見ている前でヨルダン川に駆けつけた。
19:18 そして、王の家族を渡らせるため、また王の目にかなうことをするために、渡しを整えた。ゲラの子シムイはヨルダン川を渡って行き、王の前に倒れ伏して、
19:19 王に言った。「わが君、どうか私の咎を罰しないでください。王様がエルサレムから出て行かれた日に、このしもべが犯した咎を、思い出さないでください。王様、心に留めないでください。
19:20 このしもべは、自分が罪を犯したことを知っています。ご覧ください。今日、ヨセフのすべての家に先立って、わが君、王様を迎えに下って参りました。」
19:21 ツェルヤの子アビシャイは口をはさんで言った。「シムイは、【主】に油注がれた方を呪ったので、そのために死に値するのではありませんか。」
19:22 ダビデは言った。「ツェルヤの息子たちよ。あれは私のことで、あなたがたに何の関わりがあるのか。あなたがたが、今日、私に敵対する者になろうとするとは。今日、イスラエルのうちで人が殺されてよいだろうか。私が今日イスラエルの王であることを、私が知らないとでもいうのか。」
19:23 王はシムイに言った。「あなたは死ぬことはない。」王は彼にそう誓った。

Bible Reference 聖書の記述

19:24 サウルの孫メフィボシェテは、王を迎えに下って来た。彼は、王が出て行った日から無事に帰って来た日まで、自分の足の手入れもせず、ひげも剃らず、衣服も洗っていなかった。
19:25 彼が王を迎えにエルサレムから来たとき、王は彼に言った。「メフィボシェテよ、あなたはなぜ、私とともに来なかったのか。」
19:26 彼は言った。「わが君、王様。家来が私をたぶらかしたのです。このしもべは『ろばに鞍を置き、それに乗って、王と一緒に行こう』と言ったのです。しもべは足の萎えた者ですから。
19:27 彼がこのしもべのことを王様に中傷したのです。しかし、王様は神の使いのような方ですから、お気に召すようにしてください。
19:28 私の父の家の者はみな、王様から見れば、死刑に当たる者にすぎなかったのですが、あなたは、このしもべをあなたの食卓で食事をする者のうちに入れてくださいました。ですから、この私に、どうして重ねて王様に訴える権利があるでしょう。」
19:29 王は彼に言った。「あなたはなぜ、自分のことをまだ語るのか。私は決めている。あなたとツィバとで地所を分けるのだ。」
19:30 メフィボシェテは王に言った。「王様が無事に王宮に帰られた後なら、彼が全部取ってもかまいません。」

シムイはダビデを喜んで迎え入れますが、彼は「罰しないでください」と言っているように、ダビデがアブサロムから逃げていたときには、彼を呪ったのです。ダビデは「あれは私（個人）のこと」と、そこに私怨を働かせずに赦します。
またメフィボシェテに関しては、ツィバが一方的に彼を裏切り、ダビデをだましたにも関わらず、もともとメフィボシェテのものであった財産の半分を家来であるツィバに与えてしまいます。
私たちはこのようなダビデの寛容さと霊的衰えとを見て、自分を省みるべきでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

20日　土曜

Ⅱサムエル

19:31 一方、ギルアデ人バルジライはロゲリムから下って来た。そして、ヨルダン川で王を見送るために、王とともにヨルダン川まで進んで来た。
19:32 このバルジライは、たいへん年をとっていて八十歳であった。彼は王がマハナイムにいる間、王を養っていた。非常に裕福な人だったからである。
19:33 王はバルジライに言った。「私と一緒に渡って行ってください。エルサレムの私のもとで、あなたを養います。」
19:34 バルジライは王に言った。「王様とともにエルサレムへ上って行っても、私はあと何年生きられるでしょう。
19:35 私は今、八十歳です。私に善し悪しが分かるでしょうか。しもべは食べる物も飲む物も味わうことができません。歌う男や女の声を聞くことさえできません。どうして、この上、しもべが王様の重荷になれるでしょう。
19:36 このしもべは、王様とともにヨルダン川をほんの少しだけ進んで参りましょう。王様は、そのような報酬を、どうしてこの私に下さらなければならないのでしょう。
19:37 このしもべを帰らせてください。私は自分の町で、父と母の墓の近くで死にたいのです。ご覧ください。ここに、あなたのしもべキムハムがおります。彼が、王様と一緒に渡って参ります。どうか彼に、あなたの良いと思われることをなさってください。」
19:38 王は言った。「キムハムは私と一緒に渡って行けばよい。私は、あなたが良いと思うことを彼にしよう。あなたが私にしてほしいことは何でも、あなたにしてあげよう。」
19:39 こうして、民はみなヨルダン川を渡り、王も渡った。王はバルジライに別れの口づけをして、彼を祝福した。それで、バルジライは自分の町へ帰って行った。
19:40 それから、王はギルガルへ進み、キムハムも王とともに進んだ。ユダのすべての民とイスラエルの民の半分が、王とともに進んだ。
19:41 するとそこに、イスラエルのすべての人が王のところにやって来て、王に言った。「われわれの同胞、ユダの人々は、なぜ、あなたを奪い去り、王とその家族に、また王とともにいるダビデの部下たちに、ヨルダン川を渡らせたのですか。」
19:42 ユダのすべての人々はイスラエルの人々に答えた。「王は、われわれの身内だからだ。なぜ、このことでそんなに怒るのか。いったい、われわれが王の食物を食べたとでもいうのか。王が何かわれわれに贈り物をしたとでもいうのか。」
19:43 イスラエルの人々はユダの人々に答えて言った。「われわれは、王のうちに十の分を持っている。だからダビデにも、あなたがたよりも多くを持っている。なぜ、われわれをないがしろにするのか。われわれの王を連れ戻そうと最初に言い出したのは、われわれではないか。」しかし、ユダの人々のことばは、イスラエルの人々のことばより激しかった。

Bible Reference 聖書の記述

アブラハムの子孫である神の民は、イスラエルともユダヤとも呼ばれましたが、後に列王記の時代には分裂し、北方とイスラエル南方をユダと呼ばれました。このユダはユダ族とベニヤミン族によって構成されます。そしてそのような分裂の要素がすでにこの時代にあることを感じます。
　ダビデは恩ある人に報いようとする真心がありますが、しかしこのような混乱を収拾するだけの力はありませんでした。このようなとき、人間はただ主のご計画の前に主権を明け渡しつつ、憐れみにより頼むことです。主のみことばは必ずなるからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

21日　日曜

Ⅱサムエル

20:1 たまたまそこに、よこしまな者で、名をシェバという者がいた。彼はベニヤミン人ビクリの息子であった。彼は角笛を吹き鳴らして言った。「ダビデのうちには、われわれのための割り当て地はない。エッサイの子のうちには、われわれのためのゆずりの地はない。イスラエルよ、それぞれ自分の天幕に帰れ。」
20:2 すべてのイスラエルの人々は、ダビデから離れ、ビクリの子シェバに従って行った。しかし、ユダの人々はヨルダン川からエルサレムまで、自分たちの王につき従って行った。
20:3 ダビデはエルサレムの自分の王宮に入った。王は、王宮の留守番に残しておいた十人の側女をとり、監視つきの家を与えて養ったが、彼女たちのところには通わなかった。彼女たちは、一生、やもめとなって、死ぬ日まで閉じ込められていた。
20:4 王はアマサに言った。「私のために、ユダの人々を三日のうちに召集し、あなたも、ここに帰って来なさい。」
20:5 アマサは、ユダの人々を召集するために出て行ったが、指定された期限に間に合わなかった。
20:6 ダビデはアビシャイに言った。「今や、ビクリの子シェバは、アブサロムよりも、もっとひどいわざわいを、われわれに仕掛けるに違いない。あなたは、主君の家来を引き連れて彼を追いなさい。さもないと、彼は城壁のある町に入って、逃れてしまうだろう。」
20:7 ヨアブの部下、クレタ人、ペレテ人、そしてすべての勇士たちは、アビシャイの後に続いて出て行った。彼らはエルサレムを出て、ビクリの子シェバの後を追った。
20:8 彼らがギブオンにある大きな石のそばに来たとき、アマサが彼らの前にやって来た。ヨアブは自分のよろいを身に着け、さやに収めた剣を腰の上に帯で結び付けていた。彼が進み出ると、剣が落ちた。
20:9 ヨアブはアマサに「兄弟、おまえは無事か」と言って、アマサに口づけしようとして、右手でアマサのひげをつかんだ。
20:10 アマサはヨアブの手にある剣に気をつけていなかった。ヨアブは彼の下腹を突いた。それで、はらわたが地面に流れ出た。この一突きでアマサは死んだ。ヨアブとその兄弟アビシャイは、ビクリの子シェバの後を追った。
20:11 ヨアブに仕える若者の一人がアマサのそばに立って言った。「ヨアブにつく者、ダビデに味方する者は、ヨアブに従え。」
20:12 アマサは大路の真ん中で、血まみれになって転がっていた。この若者は、兵がみな立ち止まるのを見て、アマサを大路から野原に運んだ。そして、その傍らを通る者がみな立ち止まるのを見ると、彼の上に衣を掛けた。
20:13 アマサが大路から移されると、みなヨアブの後について進み、ビクリの子シェバを追った。

ダビデには見習うべき多くのすばらしい点がありましたが、一方（もしかしたら晩年になって）信仰的な弱さも露呈しました。アブサロムの扱い、王国と私情の混同、人を見抜く目などです。またここにきてユダとイスラエルの反目はシェバの反乱という形になり、もはやダビデの指導力は限界がきました。アマサは信頼できず、ヨアブは勝手にアマサを殺します。

このような事態に陥ったとき、信仰者は何よりも人に付くよりも、神様のみこころを求めなければなりません。混乱の中で自分自身も危険という中で、本当に頼れるのは神様だけなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？